

全国学生調査について

概要

- 国として、**全国共通の質問項目**により、**学生目線から**大学教育や学びの実態を把握するための調査を実施。
- 大学・短期大学の学生を対象に、**大学での学習内容や経験、大学教育を通じて身に付いた知識・能力、大学での学びに関する意識**等について調査。調査結果は**各大学の教育改善、社会の大学教育に対する理解促進、国の政策立案の基礎資料**として活用。
- 令和元、3、4、6年度と4回の試行実施を行い、**調査方法・質問項目等の調査設計を固め、令和7年度から本格実施。**

背景

- 学生がどのような能力を身に付けているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分**との指摘。
- 各大学が教育成果等の教育の質に関する情報を把握・公表していくこと、社会が理解しやすいよう、**国は全国的な学生調査等を通じて整理し、比較できるよう一覧化して公表すべき**との提言。（平成30年11月中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」）

目的

- 各大学**が、フィードバックされた調査結果をIRやFD・SD活動、自己点検・評価等に活用し、自大学の教育改善を促進する
- 大学進学希望者やその保護者、地域社会や産業界、海外の留学関係者**等が、学生の学修成果や大学全体の教育成果に対する理解を深める
- 国が、今後の政策立案に際しての基礎資料として活用する
- 学生一人一人**が、振り返りにより今後の学修や大学生活をより充実させ、卒業後の社会における自らの姿を考える契機とする

令和7年度（本格実施）概要

【調査対象】

- 参加意向のあった大学（短期大学を含む）の学部（短期大学は学科）に在籍する、2年生及び最終学年生（短期大学は最終学年生のみ）（※通信教育課程に在籍する学生は対象外とする。）

【調査方法】

- 以下のいずれか
- 文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査
 - 参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

【調査時期】

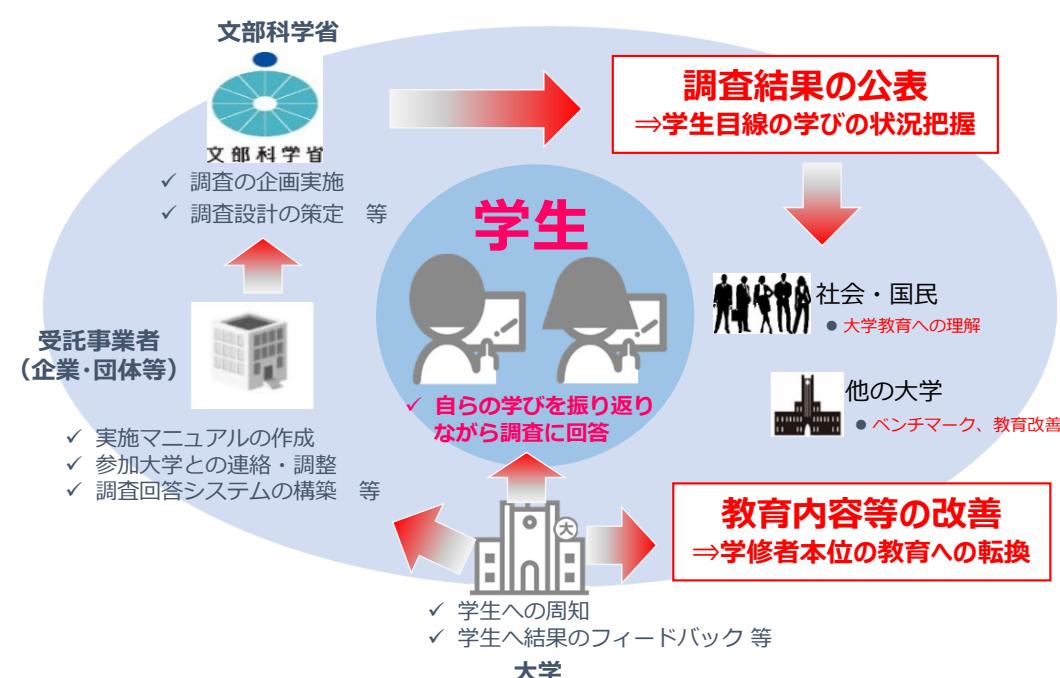
- 令和7年10月～令和8年3月（予定）
(このうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨)

【調査項目】

- 大学での学習内容や経験
 - 大学教育を通じて身に付いた知識・能力
 - 大学での学びに関する意識
 - 一週間の生活時間 等
- （選択式33問・記述式1問）

【調査結果】

- 全体の調査集計・分析結果や各質問項目の上位校（ポジティブリスト）等を公表
- 参加大学には自大学の調査結果を教学IRとしてフィードバック



情報公表の推進

学生目線から大学教育や学びの実態を把握するために国が試行実施している「全国学生調査」について、学生の学修成果に関する情報を他の大学・学部間でベンチマークできるという利点を十分に生かす形で、その調査結果を教育の質の向上に向けて積極的に活用することも重要である。

＜具体的方策＞

全国学生調査の活用

- ・全国学生調査の全校参加に向け、参加等に関するインセンティブの設定を行うとともに、円滑な調査の実施に向けて体制の整備を行う。
- ・各高等教育機関におけるIR等を通じた自己点検評価と認証評価での全国学生調査の結果の活用を促進するために周知等を行う。

中央教育審議会大学分科会 質向上・質保証システム部会

「教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループここまで議論の整理」から抜粋（令和7年8月）

第2部 新たな評価制度の基本的枠組み

3. 評価の視点【何を評価するか】

（1）評価の基準・項目～内部質保証システム及び学修成果と改善、項目及び指標の共通化

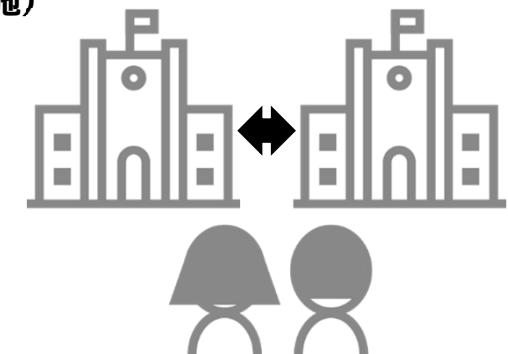
評価に当たっては、在学中、学生一人一人が知識・能力をどの程度身につけたかという学修成果の可視化が重要になる。これまでアンケート等、学生の自己報告を通じてエビデンスを得る間接評価が中心であったが、学修成果の評価は、第一義的には学生の知識や能力の表出に伴う直接評価によって行われることを受け、直接評価と間接評価の双方の観点で学習成果の可視化を行うことが求められる。直接評価に関しては、標準試験、ポートフォリオ、ルーブリックを用いた卒業論文等の評価、授業成績に基づくディプロマ・ポリシーの達成度の評価、プロジェクト・ベースト・ラーニングなどプロジェクト学修の成果の把握などの取組が高等教育機関でも始まっているところであり、そのような取組が学修成果を十分可視化できているかを検証しながら、どのような評価手法が効果的であるか各高等教育機関で検討していくことが必要である。なお、間接評価に関しては、本格実施する全国学生調査の枠組みを通じて、「新たな評価」の趣旨に即した質問項目を設定し、把握した内容を活用していくべきである

全国学生調査の結果の活用策

◆ 結果公表の同意が得られた大学の調査結果の公表（令和7年度調査結果の公表から実施）

全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を他大学と比較することで、

- ・各大学が自大学の学生の実態や意識、他大学との比較分析を踏まえた教育改善に活用
- ・大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等における、大学に対する理解の促進



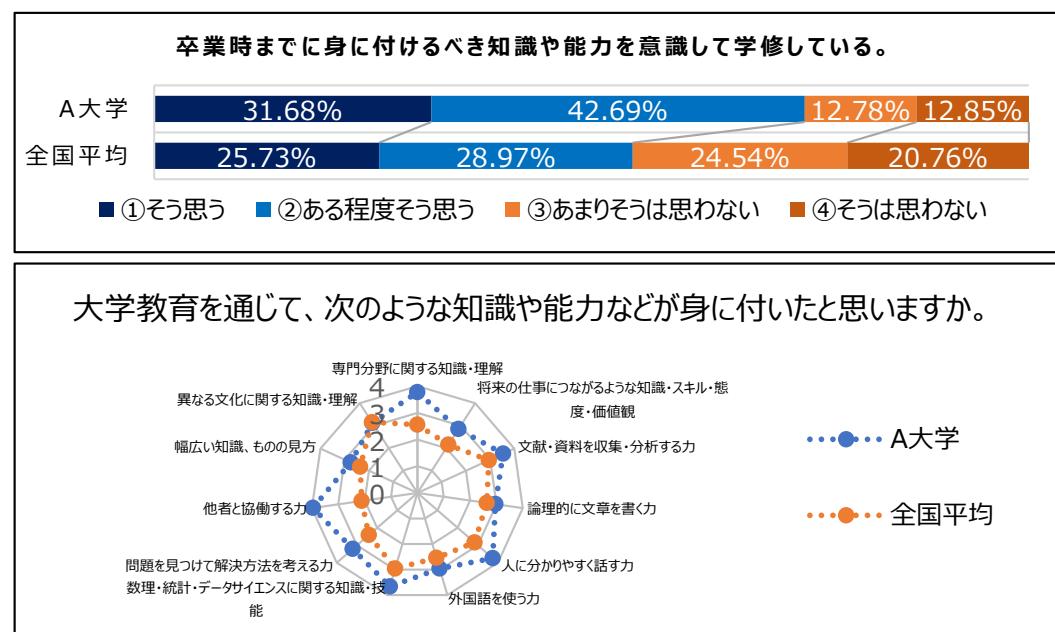
◆ 各質問項目の上位順(ポジティブリスト)の公表

各質問項目において、学部（学科）ごとに上位順に一覧化したものを公表

理解がしやすいように教え方が工夫されていた					
No.	大学名	学部	スコア	回答数	回答率
1	A大学	xx学部	xx	xx	xx%
2	B大学	xx学部	xx	xx	xx%
3	C大学	xx学部	xx	xx	xx%
4	D大学	xx学部	xx	xx	xx%
5	E大学	xx学部	xx	xx	xx%
6	F大学	xx学部	xx	xx	xx%
7	G大学	xx学部	xx	xx	xx%
8	H大学	xx学部	xx	xx	xx%
9	I大学	xx学部	xx	xx	xx%
10	J大学	xx学部	xx	xx	xx%

◆ 教学IRレポートの提供

調査結果をまとめた教学IRレポートなど、大学が利用しやすい資料を提供



※ ポジティブルリストの公表は、令和6年度調査の公表（令和7年9月）から実施3

令和7年度「全国学生調査（本格実施）」質問項目

- あなたが在籍する学部（学科）を選択してください。
- 学部（学科）の分野を選択してください。（自動表示）
- あなたの学年を選択してください。

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

（選択肢：4:よくあった、3:ある程度あった、2:あまりなかった、1:なかった）

- 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
- 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
- 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
- グループワークやディスカッションの機会がある。
- 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
- ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

経験していない場合は0を選択してください。

（選択肢：4:有用だった、3:ある程度有用だった、2:あまり有用ではなかった、1:有用ではなかった、0:経験していない）

- インターンシップ（5日間以上）
- 海外留学・海外研修（短期も含む）
- 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

（選択肢：4:身に付いた、3:ある程度身に付いた、2:あまり身に付いていない、1:身に付いていない）

- 専門分野に関する知識・理解
- 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 文献・資料を収集・分析する力
- 論理的に文章を書く力
- 人に分かりやすく話す力
- 外国語を使う力

- 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 問題を見つけて解決方法を考える力
- 他者と協働する力
- 幅広い知識、ものの見方
- 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

（選択肢：4:そう思う、3:ある程度そう思う、2:あまりそうは思わない、1:そうは思わない）

- 卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

（選択肢：1:0時間、2:1-5時間、3:6-10時間、4:11-15時間、5:16-20時間、6:21-30時間、7:31時間以上）

- 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
 - 卒業論文・卒業研究・卒業制作（Q3で2年生を選択すると非表示）
 - 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
 - 授業と直接関係しない自主的な学習
(学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等)
 - 部活動／サークル活動
 - アルバイト／定職
- 3 4. 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。
(自由記述) 【調査方法①のみ】

令和7（2025）年度より本格実施を開始します

全国学生調査

全国学生調査とは？

—調査結果はこのように活用できます—

在学生の学修実態の把握

全国共通の質問項目により全国の大学との比較分析や各大学の教育改善に活用できます



好事例の収集・分析と自大学のアピール

質問項目ごとの結果上位校一覧と教育方法・教育改善のグッドプラクティス事例を公表します

調査項目	大学名	順位
1	東京大学	1
2	京都大学	2
3	大阪大学	3
4	東洋大学	4
5	明治大学	5
6	法政大学	6
7	青山学院大学	7
8	立教大学	8
9	駒澤大学	9
10	東邦大学	10

教学IRにおける活用

調査結果をまとめた教学IRレポート等参加大学の教育改善に役立つ資料を提供します



調査の目的

急速な少子化の進展等、高等教育を取り巻く環境が大きく変動する中において、各大学は社会が期待する役割や求める人材像を自ら把握し意識しながら、各自の強み・特色を生かした教育研究活動について積極的に発信することにより、規模や立地、知名度等による入学者選抜の選択性の高低によらず、教育研究の質の高度化に向けた取組について国際社会を含む外部から適切な評価を得ていくことがこれまで以上に求められています。このような状況を踏まえ、学修者本位の教育への転換を目指す取組の一環として、学修の主体である学生目線からの大学教育や学びの実態把握を通じて、以下①～④への活用を目的とする「全国学生調査」を実施します。

① 各大学

在学生の実態や意識、他大学との比較分析を踏まえた教育改善に活用すること

② 学生

これまでの学びを振り返り、今後の学修や大学生活をより充実させ、卒業後の進路を考える上での一つの契機とすること

③ 大学進学希望者や地域社会等

各大学における学生の学修成果や大学全体の教育成果に关心を持ってもらい、大学に対する理解を深めてもらうこと

④ 国

今後の政策立案に際しての基礎資料として活用すること

全国学生調査2025

—学びの主体である学生の目線から、大学教育や学びの実態を把握します—



文部科学省

みんなの声が大学を変え 大学の未来を変える 「全国学生調査」

大学教育の
主体は学生

学生の声が
大学を変える

学生のための
より良い教育へ

調査対象

大学：学部2年生及び最終学年生
短期大学：最終学年生

回答期間

2025年11月～2026年3月末
(各大学によって設定されます。)

回答方法

- 以下のURLやQRコードから回答フォームにアクセスして回答ください。
(URL及びQRコードは各大学によって設定されます。)
- 選択式33問程度です。スマートフォン等から10分程度で回答できます。
- 質問項目は裏面のとおりです。裏面を見ながら回答すると効率的です。

QRコード

(留意事項)

- 匿名回答式のため、個人は特定されません。また、回答内容によって、その個人が不利益を受けることは一切ありません。
- 調査目的の範囲を超えて利用したり、本人の同意を得ずに第三者に対して提供することはありません。
- 不正な通信や重複回答を防止するためセッションIDを記録いたしますが、回答内容について個人を特定できる形式で公表することは決してありません。
- 今後の教育内容等の改善のために、回答内容は個人が特定されない形で所属大学へ提供します。

【1.0版】